

## 一本化騒動始末記

### 一本化のポイント

昨年、2016年6月、城山のホテルの一室で知事選候補者一本化に向けた話し合いが行われました。その数日前、私に仲介者から電話がありました。原発の是非を議論する検討委員会を設置する、そこに平良さんを入れる、これでどうだというのです。仲介者は、三反園陣営からの依頼で私に連絡してきましたといいます。

三反園氏との城山の話し合いでは、そのことを何度も確認し、合意文書の原案を作成しました。

その2週間ほど前でしょうか、一度当方から、三反園氏が川内原発の即時停止と廃炉へ向けて全力を尽くすという明確な意思表示と引き換えに一本化協議の提案をしていました。明確な回答が三反園氏から示されなかったため、それは流れていきました。切羽詰った告示10日前、先方からの要請だったのです。

公開された政策合意文書の内容は、①再稼働は拙速だった、②川内原発停止を要求する、③反対派を入れた原子力問題検討委を設置する、④可能な限り早く川内原発は廃炉にする、というものです。

### アリバイ的停止要請

三反園氏が原発問題に言及し始めた流れを見ても、③以外は、期待はできないと思っていました。原発の停止を要求するといつても、事前に九電との下打ち合わせがなされ、止めなくてもいい、あるいは、形だけ止めてくれればいい、という形はありうるからです。

停止要請にしても、九大の吉岡教授が「情けない」と表現したように、ねじの締まり具合を確認せよ、などと、すいぶん低いハードルを九電に示すものでした。

しかし、ここまで織り込み済みでした。

### 公約破りではないのか

三反園氏の知事就任以降、私たちは、「③反対派を入れた原子力問題検討委を設置する」この一点に焦点を絞って申し入れを繰り返してきました。先方からの申し出であり、さらに、一本化の共同記者会見でも、三反園氏は、はっきりと「反対派を入れる」と明言したものです。記者会見の場で明言したことで、③は県民に対する公約となったのです。

私たちは、定期検査に入る前に検討委を設置し、そこに反対派を入れることで、論理的、科学的に川内原発の諸問題が明らかになり、再稼働にブレーキがかかる事態を期待していました。

ところが、検討委の設置は遅れに遅れ、平良陣営が提出した候補者リストは完全に無視され、その性格も原発の是非は問わない、とされました。

さてさて、こんな三反園氏、信じるに足る人物なのでしょうか。

じゃあ、伊藤祐一郎氏でよかったのか、という方もいますが、そういう問題ではありません。伊藤氏もよくないが、三反園氏もよくない、ということです。

### 活動募金への協力のお願い

「とめよう原発！かごしまの会」は募金で活動を行っています。会への募金をよろしくお願ひします。

振込先 ゆうちょ銀行 名義 トメヨウゲンパツカゴシマノカイ 記号番号 01710-4-167610

他銀行からの場合 ゆうちょ銀行 一七九店 当座 0167610



発行責任者 とめよう原発！かごしまの会

〒891-0143 鹿児島市和田2丁目30-24

URL <http://nonukes.in> Mail [tomeyougenpatsukagoshima@gmail.com](mailto:tomeyougenpatsukagoshima@gmail.com)

## とめよう原発！かごしまの会ニュース Vol.1

2017年10月号



### ごあいさつ

天高く馬肥ゆる秋、皆様方におかれましては、お変わりなくご健勝にてお過ごしのことと存じます。昨年の県知事選挙に際しましては、皆様方には多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、時が経つのは早いもので、先の県知事選挙が終わって1年余りが経過しました。

知事選直後は、脱原発知事の誕生によって鹿児島県政も大きく変わっていくものと、大いに期待しておりましたが、脱原発政策においては、この1年余り特段の進展もないまま過ぎ去ってしまったように思います。私たちはこれまで、三反園知事と候補者一本化の際に交わした「政策合意文書」の確実な履行を求めて脱原発の運動を進めて参りましたが、残念ながら、現時点において満足な結果を得るに至っていません。

私たちは、今後におきましても、多くの県民の皆様のご期待に応えるべく、政策合意の確実な履行を求めていく決意ですので、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げ、ニュース発行にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

とめよう原発！かごしまの会  
代表 平良 行雄

### 結成から1年、幹事会を中心に活動を進めています！

#### 政策合意文書

平成28年6月17日

1: 三反園訓と平良行雄は県民の県民による県政に戻すために伊藤知事の4選を阻止しなければならないと考える。  
多くの県民からも4選を阻止するために候補を絞りこむべきだとの声が多数寄せられている。

2: 三反園訓と平良行雄は県政の主要政策について下記を合意する。  
① 両者は伊藤知事の「川内原発の再稼働受け入れ表明」は、県民が多く不安を抱えたままの状況で行われたもので、拙速で問題があったとの認識で一致した。  
② 両者は「熊本地震の影響を考慮し、安全確保のために川内原発を停止し、再調査、再検証を行う事を」九州電力に強く申し入れる事で一致した。  
③ 両者は原発に関する諸問題を検討する「原子力問題検討委員会（仮称）」を県庁内に恒久的に設置し、答申された諸問題についての見解をもとに県としての対応を確立して行く事を合意した。  
④ 両者は知事就任後、原発を廃炉にする方向で可能な限り早く原発に頼らない自然再生エネルギー社会の構築に取り組んで行く事で一致した。  
⑤ 両者はその他の農業、医療福祉、教育、自然環境等の県政の課題については、県民の声に真摯に耳を傾け対応する事を確認した。

伊藤知事の4選を阻止し、上記を実現するために、先行する三反園訓が出馬し、平良行雄は出馬を見送る事で合意した。

平良 行雄

とめよう原発！かごしまの会

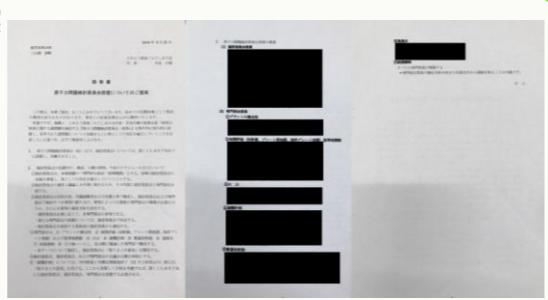
※ 政策合意文書はホームページに掲載しています。

<http://nonukes.in>

# 1年間の活動のまとめ

## ○ 2016年8月25日 原子力問題検討委員会設置についての提案

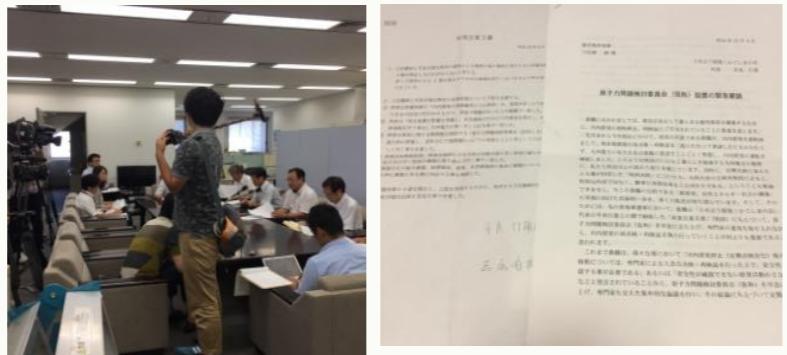
政策合意文書に基づいて、原子力問題検討委員会（仮称）設置の緊急要請について知事への申し入れを行いました。鹿児島県庁で会見をした後に、申し入れへ。知事には公務で会ってもらえないとのことで、原子力安全対策課での申し入れとなりました。



## ○ 2016年10月6日 原子力問題検討委員会設置についての申し入れ

申し入れ書を原子力安全対策課に提出しましたが、残念なことに、伊藤前知事の頃と同じように、特に部屋を取ってもらえるわけでもなく、原対課の皆さん方が働いている横の、椅子は三個しかない狭いスペースで係長の対応となりました。

対応した係長は、「聞き置くように言われています」とのお役所対応。「知事には届けます」との対応もおざなりでした。



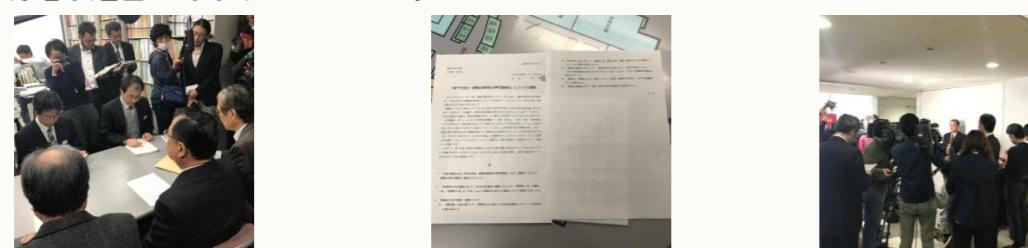
## ○ 2016年12月7日 署名の取り組み

11月7日よりネット署名に取り組み、原子力安全対策課に11687筆を10名で提出しました。定期検査後の再稼働について、8日の会見で知事は「私に稼働させるか否かの権限はない」と大きく後退している現状で再稼働を容認しました。

三反園知事の県議会答弁でも、原子力問題検討委員会に反対派を入れることについて約束したか問われて、「現在は記憶が定かではない」と述べています。メンバーについての発表はこの時点ではなく、県議会の委員会で予算は承認され、本会議でも承認され、委員会はスタートすることとなりました。

## ○ 2016年12月21日 原子力問題検討委員会開催についての再度の申し入れ

原子力安全対策課に委員会開催について5名で申し入れ書を提出しました。対応は、「伝えます」とのことで知事の明確な返答もありませんでした。



## ● 鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員会（専門家委員会）

県の専門家委員会について第1回委員会が12月28日、第2回が2月7日に開催されました。委員会では安全性や避難計画を検証するということで再稼働の是非は検討されませんでした。座長に鹿児島大学大学院の宮町宏樹教授が選出されました。委員からは、熊本地震で得られた知見の情報収集をしたり、川内原発近くで大地震が連動した場合の施設の耐震性を検証したりするよう注文が相次ぎました。避難計画に対しては、土砂災害危険箇所のデータベース化を求める声や、避難行動自体のリスクを考慮すべきだとの意見が出されました。



## ○ 2017年3月1日 県の専門家委員会のあり方に対する要請行動

専門家委員会に原発反対の委員を加え、原発の稼働を前提とせずに、稼働の是非や廃炉についてなど、幅広く議論をするよう要請行動を行いました。



## ○ 2017年4月26日 「チェルノブイリを忘れない！」街頭キャンペーン

1986年4月26日に、旧ソ連チェルノブイリ原子力発電所が爆発してから31年目。天文館献血ルーム前で行われた、ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会主催の街頭キャンペーンに参加しました。



## ○ 2017年5月16日 県の専門家委員会の宮町座長の解任を求める要請行動

ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会と一緒に要請行動を行いました。県原子力専門家委員会の宮町座長が、九電から研究委託を受けて約2億円もの研究費を受けていたことが報道され委員会の信頼性が大きく失われました。九州電力は宮町教授に「県内の地震・火山研究において専門性と知見を持ち、一番の適任者と判断して依頼した」としています。県は、「委員個人の研究について意見を言う立場なく、今後も原発関連企業からの研究の受託について申告を求めたり公表したりする予定はない」と無責任な態度に終始しています。

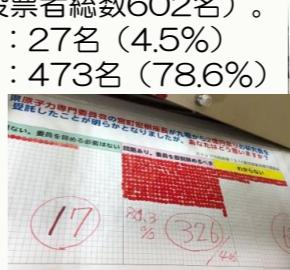


## ○ 2017年5月21日・6月4日 街頭キャンペーンに参加

ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会主催の街頭キャンペーンに参加しました。九電から約2億円の研究費をもらった鹿児島大学の宮町教授が、原子力安全・避難計画等防災専門委員会委員を続けることが「問題あり」か「問題なし」かのシール投票です。

結果は下記の通りとなりました（投票者総数602名）。

問題ない 辞めさせなくてもよい：27名 (4.5%)  
問題あり 委員を即刻辞任すべき：473名 (78.6%)  
わからない：102名 (16.9%)



## ○ 2017年7月13日 街頭キャンペーンに参加

5月16日の申し入れに関して、三反園知事や県から、何の回答もないために、「反原発・かごしまネット」、「脱原発かごしまフォーラム」、「原発ゼロをめざす鹿児島県民の会」とともに、再度申し入れを行いました。対応は、鹿児島県原子力安全対策課でした。

